

女性医師の窓

鞍月1丁目1窓際族のつぶやき
～子育て支援ってなに～石川県健康福祉部
少子化対策監室子育て支援課
沼田 直子

「なにヤッテルノ！早くして！！ママもいそがしいんだから！！（怒）」あ～あ、また言っちゃった・・・。前の車、早く行ってヨ！（八つ当たり）どうして仕事前にこんなにくたびれるんだろう。朝6時前に起きてお弁当作って、ごみ出して、学校に行くのにバス停まで送って（エンエンと続く）・・・私ってなんなんだ。他の人は出来ることがなぜできないんだ～～（県庁前の芝生を後悔の念とふがいなさで下を向きトボトボ歩く。多くの母親が陥る“私だけダメ母親症候群”（造語です）。家にいた方が子どものためにも自分自身のためにもいいんじゃないか（仕事か家庭か、両立はつらい。しかも“三歳児神話”の呪縛に縛られる母親は実に多い）。とてもじゃないけど二人三人なんて無理（もちろん年齢的にはアットー的に無理です）。なにがライフアンドワークバランスよ。岩の塊のようなプレッシャーがあるじゃないの（日本は「家庭より仕事」暗黙の規範は変わらない）。仕事するなら子どもがいない方が楽なのよ。私はまだいいよね。ライセンスもってるから自分の思うように仕事させてもらっているし、診療してないからスケジュール調整しながら授業参観も行ける。みんなどうしてるんだろう。わがまま言っちゃいけない。自分だけが主張しちゃいけないのよ。この国では（母親って子育てで必要なことを言わず我慢してるよね・・・と母親達の会で聞いた言葉の数々を思う、みんなよくやってるウンウン）。でもトロントの救急医のポールはパートタイムに変わって子育てしてたよね、銀行マンでエグゼグティブだったロバートはPTAに行くのは当然と言っていた。その上人生楽しそうだったよね～。なぜ彼の地でできることがここでは・・・。オットは3か月育児休暇をとって家事もフィフティフィティ。育児はやらなきゃわからない。北欧のパパクウォーター制度がいいなと課の中でつぶやいたけど、とてもとても（弱気）。できないんじゃないかと意識よ！子どもの心を抱きしめながら育てようと思うなら、病気の時くらい側で看たいを実現したい（理想を追うぞと強気）。男も女も子育てを本当の意味で自分の手に取り戻すことが大事と言いたいな～、自分の人生を大切にできる人が他の人の生き方も大切にできる（朝、怒りマークの私に「ママ好きだもん」涙を溜めたわが子を思って胸がキュン）。子育てって素晴らしい。帰ってギューするから待っててね。（・・・そして翌日は冒頭に戻る・・・）